



待つて呉れと云ふのであつた。それでは特許条件だけでも極めて置いて呉れ、特許を得たからとて、今直ぐに敷設する譯では無いからと云つたが、それも承知して呉れぬ、已むを得ず私共は代理者を遣して歸つて來ましたが、三十一年に至つて特許條約が始めて出來ました、此間に京仁線買入れの事があつたが、此時にも大變苦心をいたしました。民間の金持に説いても誰れも應じないで、時の内閣の實権者大隈外務大臣に會つて話すとそれは怪しからぬ、日本の金持は何をして居るか、己れが話をしてやると云ふので、三井岩崎を初めとして富豪連を呼び集め、例の雄辯で叱りつけた。其處でやつとシンデゲートを作つて買入れたが、私共にも一口持てと責められたにはヒドク閉口しました。之に就いて其後多少かばり困難しましたが、今日となつて見ればこれは國家の爲めにも非常の利益であつた。

特許條約は愈よ出來た、イザ會社の創立となつたが、當時の經濟界は非常の不景氣で、株は著しく下落して居り、金利は一割から一割二分の間であつたから六分の補給利率位ではなかく應ずるものがない。私共は手分けをして全國を遊説しやつと十萬株集めて、五圓の拂込を遊説し三年の年限の切れる僅か前、三十四年の七月に起工式を挙げましたが、其後も金の事ではヒドク苦心しました。私は元來國有論者で今日となつては京釜も國有にするが好いと思ふて居るが、此の國有論を、創立運動中は頻りに突き込まれたものでした。私共の計畫は成るべく儉約して二十萬位で全軌をあげる積りでありましたが、政府の手に移つてはさうは行かぬ。聞く處では二千九百五十萬圓ばかりに上つて居ると云ふが、政府から出たのは四百五十萬圓だけで、結局速成の爲めに、會社は五百萬圓ほどと損をして居る。

京釜鐵道開通式

● 貴族院議員、● 衆議院議員、● 銀行員、● 新聞記者、● 株主、● 受入委員、● 鐵道會社役員、● 商人

- 貴族院議員、● 衆議院議員、● 銀行員、● 新聞記者、● 株主、● 受入委員、● 鐵道會社役員、● 商人
- 貴族院議員、● 衆議院議員、● 銀行員、● 新聞記者、● 株主、● 受入委員、● 鐵道會社役員、● 商人
- 貴族院議員、● 衆議院議員、● 銀行員、● 新聞記者、● 株主、● 受入委員、● 鐵道會社役員、● 商人

- 貴族院議員、● 衆議院議員、● 銀行員、● 新聞記者、● 株主、● 受入委員、● 鐵道會社役員、● 商人
- 貴族院議員、● 衆議院議員、● 銀行員、● 新聞記者、● 株主、● 受入委員、● 鐵道會社役員、● 商人
- 貴族院議員、● 衆議院議員、● 銀行員、● 新聞記者、● 株主、● 受入委員、● 鐵道會社役員、● 商人

- 貴族院議員、● 衆議院議員、● 銀行員、● 新聞記者、● 株主、● 受入委員、● 鐵道會社役員、● 商人
- 貴族院議員、● 衆議院議員、● 銀行員、● 新聞記者、● 株主、● 受入委員、● 鐵道會社役員、● 商人
- 貴族院議員、● 衆議院議員、● 銀行員、● 新聞記者、● 株主、● 受入委員、● 鐵道會社役員、● 商人



Baron S. Ozaki, Business Director of the Soul-Fusan Railway.

- 貴族院議員、● 衆議院議員、● 銀行員、● 新聞記者、● 株主、● 受入委員、● 鐵道會社役員、● 商人
- 貴族院議員、● 衆議院議員、● 銀行員、● 新聞記者、● 株主、● 受入委員、● 鐵道會社役員、● 商人
- 貴族院議員、● 衆議院議員、● 銀行員、● 新聞記者、● 株主、● 受入委員、● 鐵道會社役員、● 商人

五月二十五日午後一時始 開通式に於て

五月二十七日 京城仁川官民居留民の歡迎會あり

京釜鐵道の紀念獻上 式紀念の爲め高貴なる花瓶八個を韓國皇に献上する等にて此程來製作せしめつ四日同地に輸送したりと

五月二十七日 京城仁川官民居留民の歡迎會あり

此地下鐵道は高架鐵道會社にて營業を爲せども、其所有は市に屬する分は建設費九百萬圓を投じたり、高架鐵道會社は二十年の期限にて之れを市より借り受け、鐵道内を通ずる一車に付十錢を市に拂ふ必要の設備を爲せり、鐵道は明治三十一年に通せり

紀行



韓國警見録

第六信 木 下 生
於京城五月廿四日午前

車中の筆談 前信書残したる一事あり、廿三日我等參列者一行を載せたる列車が太田に着くや、三人の韓人二等室に入り来る、乗合客其帽子を見て相當の韓人なりと云ひければ、生は先づ之に持合せの菓子と與へ左の筆談を試む。

閣下 敢問大人等往何地乎
將向京城
大人等姓名奈何
第一座姓名姜周卿。僕姓名閔康鎬。

又姓名洪鍾燾
此種菓子甘味乎
味品果甚好

僕將向京城列釜釜鐵道開通式
僕亦開鐵道開通式矣果然
大人等京城行在觀光乎何如

吾等作郊外之行今還家路將觀光乎
開通日時
僕觀貴國山川之美又賞拓地農耕之盛

偏癖山海之美不可謂壯觀之物色
僕信鐵路開通後京男婚嫁女、洛東江之魚貝爲京城神籍之好下物

千里咫尺是云列車之神功、亦不羨夢翁縮地之術矣
僕叨勸說大人等一遊日本觀秀麗之山河與文明之偉觀

無
僕感與大人等筆談興味頗多
座撥披襟誼蘊而似疏筵俟後日之更奉

亦旅行中の一興と謂ふ可し。
▲京城の驅巡り 一昨夜は三日月旅館に一泊、昨朝直ちに鹿島組に轉宿するや取り敢へず南大門外なる京釜開通式事務所を訪ふ、右市總裁、川崎理事、笠井開通式委員長等に面會、極めて多忙なり。

準備中の式場を一覽せしに其規模頗る宏大にして、綠門の偉大なる、會食場の廣々したる、能舞臺の本仕掛なる、孰れも韓人の眼を驚かすに足るものならむか、

追て詳記することせむ。午後は和田勝氏に案内せられて、南山の一端なる

第七信 木 下 生

於京城五月廿四日午後十二時
仁川に往く 今廿四日午前十一時五分南大門發列車にて仁川に赴き鐵道監督に就き山根少將を訪へども在らず、依て技師長石川石代氏に就き京釜鐵道便乗の承諾を得て乘車券を貰ふ、其他遠藤、横井外數氏に面會せしも午後七時半より京城居留民の發起にかゝる倭城臺の招待會に臨席する爲め歸路を急ぎたれば、再度下仁することとして午後四時の列車にて引返せり。

▲倭城臺の招待會 京城在住の日本居留民諸氏は今回京釜鐵道開通式に臨席の爲め渡韓したる者に對し今廿四日午後七時半より倭城臺にて招待會を催されたり

倭城臺は南山の中腹に隆起せる一阜岡にして、招魂紀念碑の在る所なるが、幸ひ連日の好天氣なれば定刻より烟火の打上げを合圖に來會したる主客頗る多く、生は少しく遅れて出席せしが、尙長谷川大將、井上勝子、田村少將、山之内鐵道局長等に面會せり、臺は京城市街を眼前に瞰下し、松樹茂り、模擬店あり、立食所あり、球燈を連繫し、篝火を焚き、數千本の烟火を打上げ頗る盛會なりし。

於京城五月廿六日午前
第八信 木 下 生

開通式の偉觀
四百五十里の道を遠しとせずして遙々京城に來りしは此の開通式に列せむが爲めなり、其式の如何に施行せらるるやを目撃せむが爲めなり、昨廿五日南大門外に舉行せられたる京釜開通式は當局諸氏の非常なる盡力に依て遺憾なく遂行せられ、李氏建國以來空前の盛觀を呈し、大成功を以て終り、韓國に於ける我が國威の發展を援くる夫れ幾許ぞや、請ふ其實況を記述せんか。

▲開通式 式場の設備は廿四日の夕刻を以て残りなく了れり、廿五日は朝より烟火を打上げ、來賓は午前九時頃より續々入場せり、空は薄雲を以て蔽はれ而も溫暖なれば申分なく、聽て博恭王殿下義陽君殿下は大浦遞信大臣其他日韓の各高官を隨へ午前十時四十五分に式場に臨み、

官を隨へ午前十時四十五分に式場に臨み、

上し線路圖及經營概要を捧呈して左の式辭を朗讀したり。

明治三十八年五月廿五日 博恭王殿下李載熙殿下の御臨場を仰ぎ各國公使及び朝野紳士諸君を招待して京釜鐵道の開通式を舉ぐ仰り本鐵道は明治三十四年八月工を起し拮据經營夜を以て日に繼ぎ飛躍を發動して山を攀じ江を隔へ昨年十一月開始に鐵道敷設の工を終え本年一月營業を開始せり是れ偏に韓國政府特別の保護と朝野有志の熱誠なる贊助に起因するものなり若し其本鐵道の沿革線路の形勢工事の状況等を別に冊を具し之を陳すべくは劉覽を賜ひ其視概を領せられんことを不肖公使本公使の任に當るを以て職員と共に益々勉勵運輸交通の便益を圖り殖産興業の繁盛を扶け兩國政府の恩眷と有志諸君の希望に副ゆることを期す

總裁の式辭終るや博恭王殿下先づ起つて令旨を賜ひ、次に義陽君殿下亦令旨を賜ひたり(記者曰く兩殿下の令旨は前號に記したれば略す)

古市總裁は恭しく兩殿下の前に進み、京釜鐵道開通式に對し博恭王殿下李載熙殿下には優渥なる令旨を賜ふ公使等感激の至に堪えず今自奮勵兩國に於ける福利の増進を助けんことを期す

次に米國公使アルレン氏は「余は渡韓以來廿一年なり嘗て京仁間の往復に三日を來し一年なり嘗て京仁間の往復に三日を費したる事ありき、今や京釜鐵道開通となりしは其便利の増加非常なり、此分にて進まば將來巴里を發して夢の中に南大門驛に到着するの時期到來するならむ、兎に角本鐵道開通は韓國の文明と産業とに裨益を與ふ可し」との意味の演説を爲し次に大浦遞信大臣は左の祝辭を朗讀す

京釜鐵道敷設の工を竣へ日本を以て開通の式を舉ぐるに至りたるは我國と韓國の交通上誠に慶賀に堪へざる所なり願ふに本鐵道經營以來殆んど十年内外の情勢は久し力を此に専らにするを容さず然るに前年來時局漸く扶助し韓延の必要益々迫るに及び我諸員は特に之を補助し韓延の便宜を興へ當局諸員は夙夜匪懈の功に遂に能く昇進し其目的を達することを得たり今より以て兩國の鐵道一帯帯水を隔て相連絡し國都相距の遙々數日に出でて其一旦鐵道の用を應ずるを得るは論なく此に由りて國際の情誼を親密にし産業の開發を促進し政治上經濟上一新の時を期すへきに至れり蓋し其効果の及ぶ所極めて大なるものありしを望むべく當局諸員本鐵道創設の精神を遺し誠實誠守り丁寧を接し之を運轉するに於て體面を重んずることを茲に此盛會に臨み深く當局諸員の勞を多し併せて將來の希望を述ぶ

明治三十八年五月廿五日 遞信大臣博恭王殿下 大浦 兼武

次に韓國農相朴齊純氏朝鮮文にて祝辭を

朗讀せり、林駐韓公使は起つて「本日兩殿下の御來臨を辱ふし又韓國大官各國使臣、特に遠路貴衆兩院議員の參列せられたるは深く感謝する處なり、余は帝國の代表者として此地に在留すること五年、本鐵道の起工せざる時より來りて今日其竣工を見たるは甚だ愉快なる處なり、本鐵道の目的は主として平和の趣旨に在りて米國公使の御演説に在りし如く各國代表者は孰れも同情を寄せられ本鐵道が韓國に與ふる利益は莫大なるものなる可し尙貴衆議員諸氏は宿泊其他に就て不便不自由の點あらむが此等は今日の場合忍耐せられむことを希望す」と云々の意味を述べ夫より正親町實正伯は貴族院議員、江原素六氏は衆議院議員を代表して各左の祝辭を朗讀せり。

京釜鐵道今や其工を竣へ全線開通の昌運に會す是れ日韓兩國協力の結果と會社が拮据經營の功に依りざらばなし會社に日本を以て盛大なる開通式を舉行せられ余亦參列の榮を荷ふ何の喜びが之に如かん想ふに交通運輸の利便を加ふるに併ひ日韓兩國の經濟に大發展を來し相互の千係を以て遂に深厚ならしむることを期して述べべきに茲に參列貴族院議員を代表して一言を述べて祝辭を爲す

明治三十八年五月二十五日 貴族院議員正三位伯 正親町實正

京釜鐵道敷設の工を竣へ日本を以て開通の式を舉ぐるに至りたるは我國と韓國の交通上誠に慶賀に堪へざる所なり願ふに本鐵道經營以來殆んど十年内外の情勢は久し力を此に専らにするを容さず然るに前年來時局漸く扶助し韓延の必要益々迫るに及び我諸員は特に之を補助し韓延の便宜を興へ當局諸員は夙夜匪懈の功に遂に能く昇進し其目的を達することを得たり今より以て兩國の鐵道一帯帯水を隔て相連絡し國都相距の遙々數日に出でて其一旦鐵道の用を應ずるを得るは論なく此に由りて國際の情誼を親密にし産業の開發を促進し政治上經濟上一新の時を期すへきに至れり蓋し其効果の及ぶ所極めて大なるものありしを望むべく當局諸員本鐵道創設の精神を遺し誠實誠守り丁寧を接し之を運轉するに於て體面を重んずることを茲に此盛會に臨み深く當局諸員の勞を多し併せて將來の希望を述ぶ

明治三十八年五月廿五日 遞信大臣博恭王殿下 大浦 兼武

次に韓國農相朴齊純氏朝鮮文にて祝辭を

朗讀せり、林駐韓公使は起つて「本日兩殿下の御來臨を辱ふし又韓國大官各國使臣、特に遠路貴衆兩院議員の參列せられたるは深く感謝する處なり、余は帝國の代表者として此地に在留すること五年、本鐵道の起工せざる時より來りて今日其竣工を見たるは甚だ愉快なる處なり、本鐵道の目的は主として平和の趣旨に在りて米國公使の御演説に在りし如く各國代表者は孰れも同情を寄せられ本鐵道が韓國に與ふる利益は莫大なるものなる可し尙貴衆議員諸氏は宿泊其他に就て不便不自由の點あらむが此等は今日の場合忍耐せられむことを希望す」と云々の意味を述べ夫より正親町實正伯は貴族院議員、江原素六氏は衆議院議員を代表して各左の祝辭を朗讀せり。

京釜鐵道今や其工を竣へ全線開通の昌運に會す是れ日韓兩國協力の結果と會社が拮据經營の功に依りざらばなし會社に日本を以て盛大なる開通式を舉行せられ余亦參列の榮を荷ふ何の喜びが之に如かん想ふに交通運輸の利便を加ふるに併ひ日韓兩國の經濟に大發展を來し相互の千係を以て遂に深厚ならしむることを期して述べべきに茲に參列貴族院議員を代表して一言を述べて祝辭を爲す

明治三十八年五月二十五日 貴族院議員正三位伯 正親町實正

京釜鐵道敷設の工を竣へ日本を以て開通の式を舉ぐるに至りたるは我國と韓國の交通上誠に慶賀に堪へざる所なり願ふに本鐵道經營以來殆んど十年内外の情勢は久し力を此に専らにするを容さず然るに前年來時局漸く扶助し韓延の必要益々迫るに及び我諸員は特に之を補助し韓延の便宜を興へ當局諸員は夙夜匪懈の功に遂に能く昇進し其目的を達することを得たり今より以て兩國の鐵道一帯帯水を隔て相連絡し國都相距の遙々數日に出でて其一旦鐵道の用を應ずるを得るは論なく此に由りて國際の情誼を親密にし産業の開發を促進し政治上經濟上一新の時を期すへきに至れり蓋し其効果の及ぶ所極めて大なるものありしを望むべく當局諸員本鐵道創設の精神を遺し誠實誠守り丁寧を接し之を運轉するに於て體面を重んずることを茲に此盛會に臨み深く當局諸員の勞を多し併せて將來の希望を述ぶ

明治三十八年五月廿五日 遞信大臣博恭王殿下 大浦 兼武

祝言

羽衣 和田中 幸次郎 橋本熊三郎 和谷民之助 幸次郎 森田 大四郎太郎 田中 耕吉 幸次郎 小寺華之助 田中 耕吉 幸次郎 奥 知狀

井かつちり 茂山千五郎 太刀 春 茂山忠三郎

狂言 以上

大神樂(東京より渡來、會社の催し)

二、茶店(山上に在り)

三、ピヤホール(山上と食堂の附近に在り)

四、汁粉屋(山上)

五、鮮魚山(山上)

六、韓妓舞踏(露前大韓運輸會社寄附)

七、投餅餅五石、韓錢百元即一錢韓一萬圓、ハシカチーフ一千筋にて土木諸員人寄附、露の横に在り)

八、角力

九、日韓人握手の人形(山上遊園に在り)

十、日韓人風俗人形(全所藝妓寄附)

十一、古稀物博覽會(駐屯軍第二大隊寄附、愛に陳列せるは牛の眼玉を景清の眼玉と稱し、大徳額を以て千代萩の帯まじりなきカシ、更紗の切を見せ遊樂の片袖に擬したる類にて、孰れも失笑のものなり)

十二、小野道風の作人形(山上遊園、後備步兵第二十四隊寄附)

十三、插花席(各種盆栽を排列し尚花菖蒲の造花を植へ全隊第一大隊寄附)

十四、櫻と山吹の造花(全隊第一大隊寄附、山吹は最も上出来なり)

十五、小島高德造人形(宴席後部の山地、某大隊寄附)

十六、烟火(晝間夜間に數百本を打上ぐ、殊に機關車の仕掛火花は最も立派なり)

十七、輕氣球(大小數個ありて騎馬の人物其他面白もの多かり)

十八、爆竹旗開き(露の四方高臺にて行へり)

十九、樂隊時々奏樂して場内を賑はしたり)

▲能樂 當日餘興の最大なるは能樂にして實に東京より觀世清康の態々渡韓し

たるものなり、其式能組は左の如し。

式能組 午後一時始

片山九郎三郎 平松政平 奥 知狀 田中 耕吉 大島野太郎

